

「こんなに凄かった名古屋城の石垣」

名古屋城の石垣は、「公儀普請」によって築かれ、20の大家が築城に関わっている。そして、慶長15(1610)年6月に根石が置かれ、その年の9月には城内の石垣が築かれたとされており、約4カ月で、今見る名古屋城の石垣の大部分が築かれたことになる。

これまで、石垣の調査・研究は行われてきているものの、名古屋城全体を通しての、技術面からみた悉皆的な調査・研究は行われず、石垣の技術的特徴や時代性は明らかにされていない。

そこで、2022年度より名古屋城石垣の悉皆調査を始め、現在も調査継続中ではあるが、技術的特徴や時代性がある程度明らかになってきた。また、調査を進める中で、20名の大家の技術的特徴も明らかとなり、これまで知られていない名古屋城石垣の特徴についてみていく。

1.城郭石垣の技術(図1、図2)

城郭石垣は、表面に見える築石^{ツキイシ}と背面にある地山・盛土、さらに両者の間にある裏込め^{ウラゴ}によって成り立っている。そして、石垣は平部と隅の隅角部によって構成され、時代の移り変わりとともに、平部、隅角部で石材加工、石積み技術に変遷がみられる。ここでは、全国的な技術変遷を下記の項目に着目してみていく。

(石材加工)

- ①石材加工方法：自然石・割れ石・割石・切石
- ②表面加工：加工無・割肌・鑿加工

(石積み技術)

平部

- ①加工程度による：野面積み・割石積み・切石積み
- ②横目地：乱積み・布崩し積み・布積み・谷落と積み

隅角部

- ①積み方：算木積み・算木積み(角脇石)・算木積み(三つ目石)
- ②平部と隅角部との関係性：非一連・一連

2.名古屋城調査の概要

名古屋城は全体の7割程度が築城時の石垣が残っている。調査は、名古屋城石垣全体の特徴を明らかにするためのもので、結果は図2～7となる。

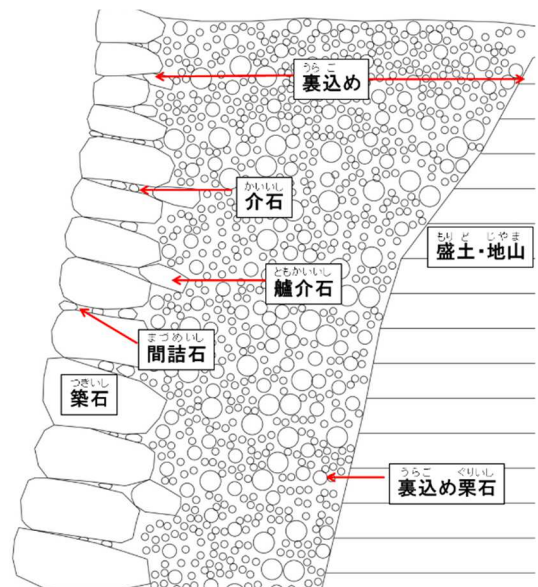


図1 石垣構造図

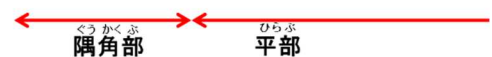


図2 石垣構成図

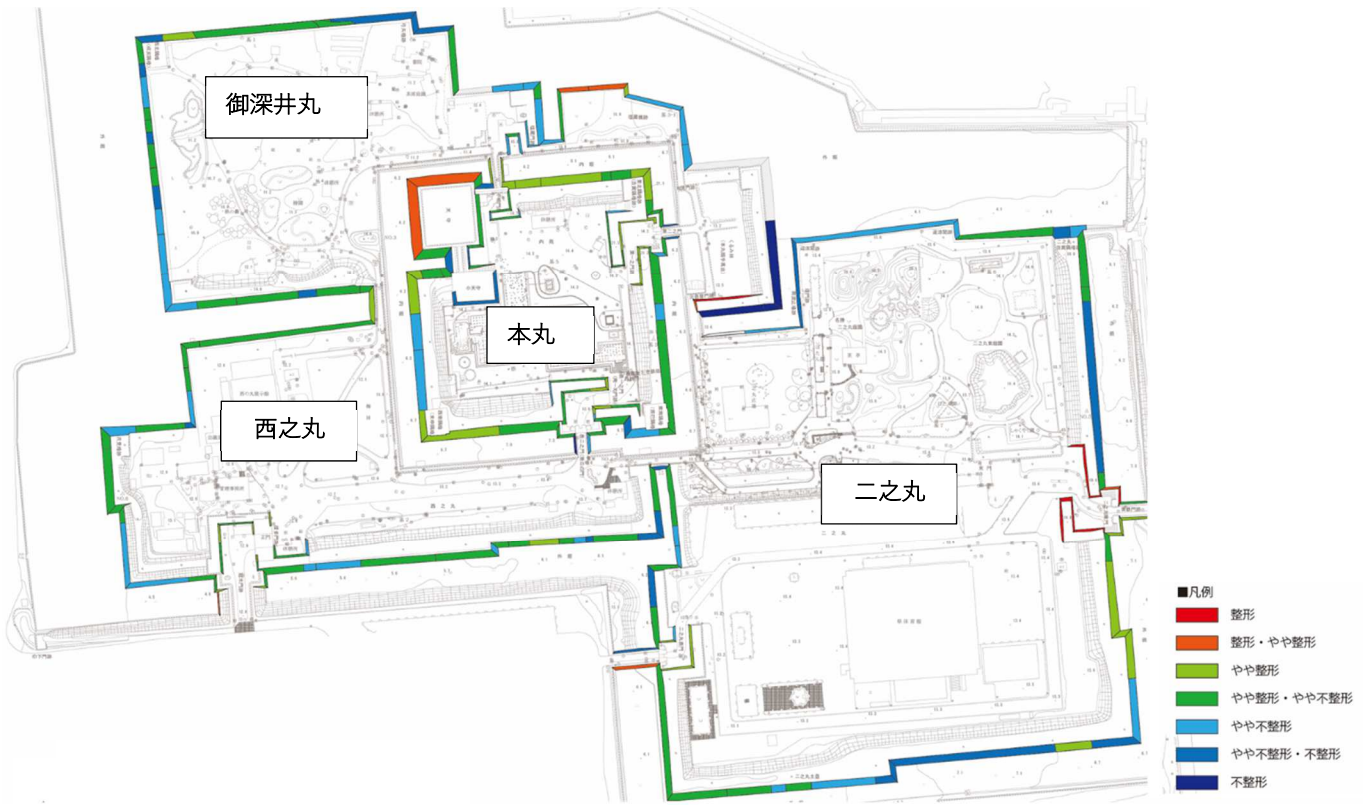


図2 名古屋城石垣整形度 ※今後の調査次第で修正の可能性有

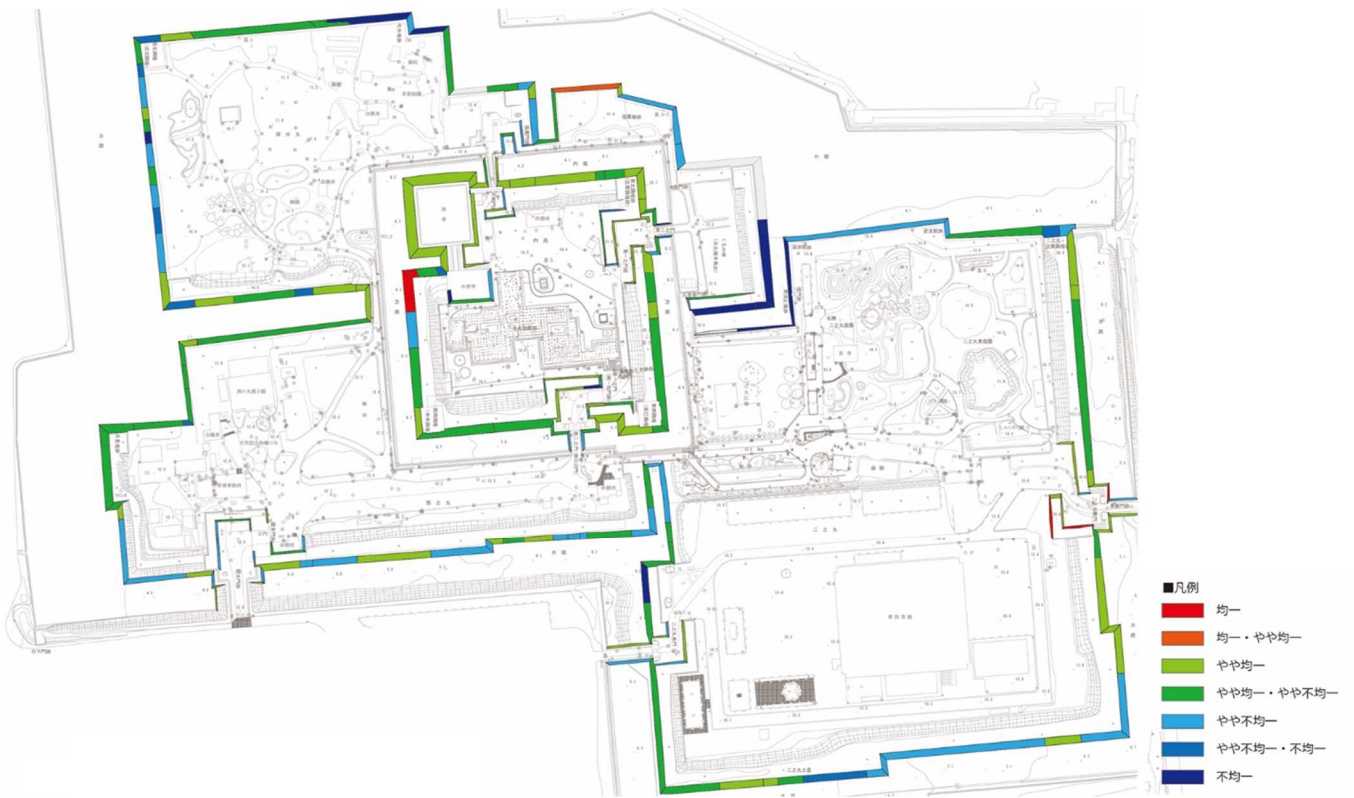


図3 名古屋城石垣均一度 ※今後の調査次第で修正の可能性有



図4 名古屋城石積み技術(加工程度による) ※今後の調査次第で修正の可能性有

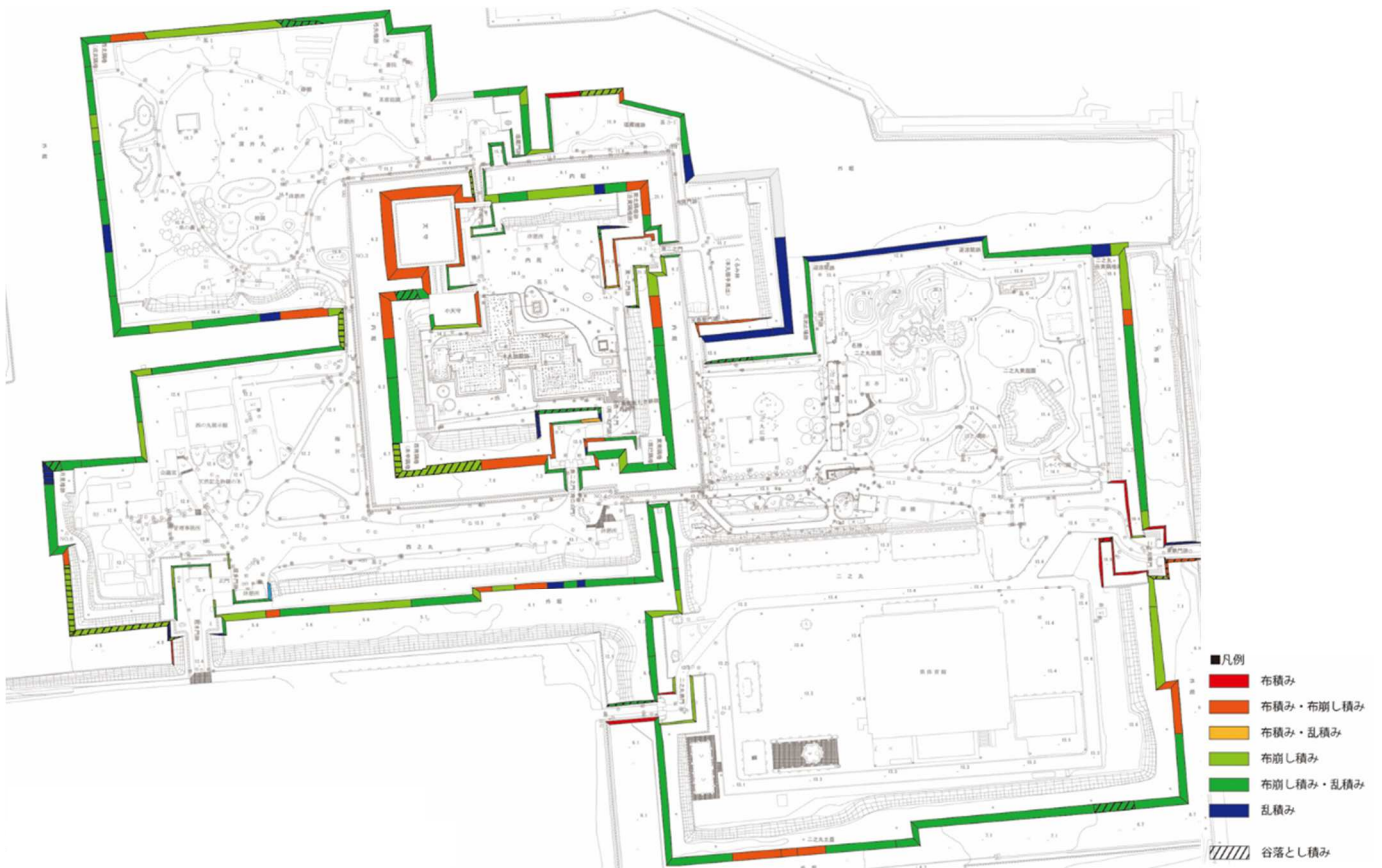


図5 名古屋城石積み技術(横目地の通りによる) ※今後の調査次第で修正の可能性有

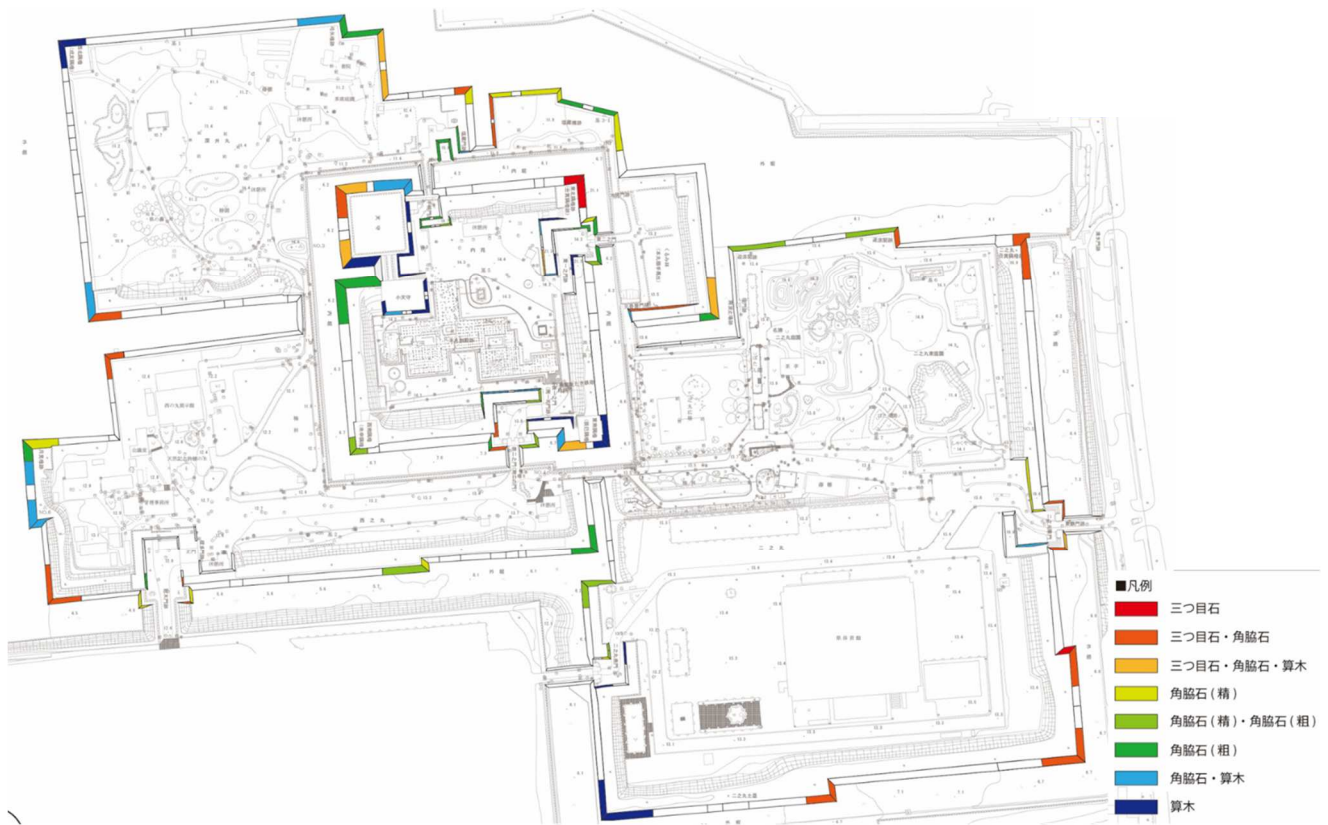


図6 名古屋城隅角部の石積み技術 ※今後の調査次第で修正の可能性有

3.修理記録との照合

調査結果により、名古屋城全体の石材加工、石積み技術が明らかとなった。この結果、名古屋城石垣は、すべて同じ石材加工、石積み技術ではないことも判明した。そこで、築城時以降に記された、修理の届け出や修理記録が残ることから、これらの史料と調査結果を照合することにより、名古屋城石垣全体の編年を整理する。

4.大名家による技術差

修理の届け出、修理記録との照合によって、ある程度編年が明らかとなり、慶長15年の築城時の石垣も特定できている。しかし、築城時と考えられる石垣の中でも、石材加工、石積み技術の差が確認される。これは、名古屋城が公儀普請によって20の大名家が築いたためと考えられる。

そこで、築城時における、大名家の担当する丁場を記した「丁場割図」をもとに、大名家による技術差をみていく。